

イトヨ (トゲウオ科)



学名：*Gasterosteus aculeatus* (降海型イトヨ)

※*Gasterosteus* sp. (陸封型イトヨ)

別名：トゲウオ 大きさ：8 cm

特徴：口は小さく、体は側扁している。背びれは3本の独立した棘とやわらかい軟条でできている。腹びれにも棘が発達している。降海型と陸封型が知られる。

国内の分布：降海型は、北海道と太平洋側は利根川を南限とする本州に、日本海側は山口県を西限とする本州に分布。陸封型は北海道大沼、福島県会津盆地、栃木県那須地方など、各地の湧水池などに分布する。

県内の分布：降海型は霞ヶ浦や涸沼などで採捕された記録がある。陸封型は、日立市の泉が森神社から湧出する泉川に分布。

備考：地元からの聞き取り情報では、泉川に分布するイトヨは初めから生息していたものではなく、1960年代に栃木県のイトヨが放流されたものとされている。しかし、それ以前から生息していた可能性を否定することはできないため真意のほどはわからない。国内でも貴重な陸封型の生息地である泉川は、現在、イトヨの里として地元住



写真：降海型（上）と陸封型。陸封型は泉川産。

民によって保護され、大切にされている。

日本産イトヨ属魚類の分類は再検討の余地があるとされている（細谷，2000）。ここでは細谷の指摘に従い、降海型イトヨの学名を *G. aculeatus*，陸封型イトヨを *G. sp.* として扱った。なお、降海型イトヨは茨城県版レッドデータブックで危急種に、陸封型イトヨは環境省レッドリストで絶滅のおそれのある地域個体群に選定されている。

主な文献：細谷和海（2000）トゲウオ科．日本産魚類検索 第2版．pp. 1506-1507.